

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点 地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

山口県熊毛郡平生町

○学校名

平生町立佐賀小学校

○学校のURL

<http://www.essaga.town.hirao.lg.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 6学級 、 【特別支援学級】 なし 、 【合計】 6学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 64人 (平成26年11月20日現在)
(内訳: 1年生4人 2年生11人 3年生7人 4年生8人 5年生19人 6年生15人)

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績(実施年度及び事業の別)

平成25年度人権教育研究推進事業(人権教育総合推進地域事業)
平成26年度人権教育研究推進事業(人権教育総合推進地域事業)

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
未来を拓く たくましい「佐賀っ子」の育成 (社会的自立の基礎を培う)
【人権教育に関する目標】(*人権教育研究推進事業の平生町全体の目標)
互いを認め合い、共に高め合う人権教育の推進 ~学校・家庭・地域の豊かな関わり合いを通して~

○人権教育に係る取組一口メモ

学校支援ボランティアを始め、児童クラブや地域団体など、学校や家庭、地域住民が連携・協力して、子供の成長を地域で支援する取組を行っている。

○人権教育にかかる取組の全体概要

- (1) 学校と地域との交流事業
○あいさつ運動の推進 ○学校支援ボランティアによる交流学习の推進
- (2) 学校・家庭・地域との連携事業
○学校・PTA共催の人権教育講演会等の実施 ○Webや広報誌等の充実
- (3) 幼・小・中連携事業
○園児・児童の小・中学校進学におけるスムーズな環境づくり等
- (4) 関わり合いを通じた人権が尊重された学校づくり
○互いのよさや違いを認め合う人間関係づくり等

3. 特色ある実践事例の内容

◆学校・家庭・地域の連携・協力による地域ぐるみで子供たちを見守り育てる取組

○ 取組例（1）「視覚障害者とのふれあい」

この取組は、障害者への理解を深めることを目的として実施された。4年生の国語科の点字についての学習を導入として、総合的な学習の時間を活用して取り組んだ。

主な取組内容として、校区内に住んでおられる視覚障害のある高齢者の方を、ゲストティーチャーとして招へいし、自分の幼少期の頃の話や、日常生活の様子などについての講話をしていただいたことがあげられる。

子供たちは「〇〇のおばあちゃん」と親しみを込めてその方を呼ぶようになり、更に交流を深めるため、その方との交流会を自分たちで企画した。目が不自由なおばあちゃんが楽しめる遊びを考え、点字ボランティアサークルの方々の助けを借りながら、点字で招待状を作成した。

交流会当日、子供たちは玄関からその方の手を引いて教室まで案内をして歓迎した。交流会では、歌やリコーダーの演奏を披露した他、皆で考えた遊びを一緒にするなど、これまで以上に交流を深め、おばあちゃんへの感謝の気持ちを伝えることができた。

これらの取組を通して、子供たちは視覚障害への理解を深め、障害のある方への接し方や点字を扱う技能を学ぶとともに、障害者と健常者が共に活動することの喜びを実感した。

○ 取組例（2）「学校・保護者が一緒に地域の方に感謝の気持ちを表した取組」

この取組は、地域住民との交流を深め、豊かな人間性を育むことを目的として実施された。日頃、学校支援等で子供たちを見守ってくださる地域の方に感謝の気持ちを伝えるために、運動会で地域の学校支援ボランティアの方を対象にしたプログラムを企画した。

主な取組内容として、プログラムの中でプランターに花の苗を植えることや、1年生とのジャンケン、6年生との記念撮影など、子供たちと地域の方の触れ合いができるように工夫したことがあげられる。

当日は、自分の子供や孫がいらっしゃらないにもかかわらず、このプログラムに出場するために早くから会場に来て、子供たちの頑張る姿を見てくださる地域の方が大勢おられた。準備や競技中の世話を、子供や教職員と保護者が一緒に行うことで、感謝の気持ちがこもったプログラムとなった。地域の方も大変喜ばれ、学校支援で来校するたびに、このプログラムで植えたプランターの花を見て「運動会で植えた花だね。」「あはれは楽しかったねえ。」と話している。

これらの取組を通して、子供たちは地域の方々とつながることで感じる温かさや、地域の方々と一緒になって行事を楽しむことのすばらしさを体験し、自他を尊重する心が育まれた。また、地域の方々も、子供たちからの感謝の気持ちが伝わり、これまで以上に学校への関わりを深め、地域の子供は地域で育てるといった心情の深化につながった。



○ 取組例（3）「保育園・中学校との交流」

この取組は、保・小・中間で滑らかな連携を図ることで、児童の自主性と新たな活動実践への意欲を育むことを目的として実施された。

主な取組内容として、1年生による保育園との交流学习や中学校教員による小学5・6年生への出前授業があげられる。

交流学习では、生活科の学習单元である「秋のお祭り」に年長児を招待した。子供たちは、園児に楽しんでもらうために工夫したお店をつくり、応対などの言葉がけにも、気を遣って活動した。園児も楽しく活動し、子供たちは園児と触れ合うことに喜びを感じる事ができた。

また、小中の滑らかな接続のために、平生中学校から教員を小学校に招いて、5・6年生の外国語活動や数学、体育などの出前授業を行った。中学校の先生のきびきびとした指示や専門性の高い学習内容に、子供たちは真剣な表情で学習に取り組んでいた。中学校への進学に際し、学校規模や学習内容、生活環境が大きく変わり、子供たちの精神的負担は大きい。その軽減のためにも子供たちに早くから中学校の情報を与え、安心して進学できる環境を整えることが大切である。

これらの取組を通して、子供たちは人に優しくすることの大切さを学び、相手のことを考えた言動を意識するようになった。また、進学への不安を取り除くことで精神的にも安定し、新しい目標に向かって落ち着いた学校生活を送る児童が増えた。

○ 取組例（4）「地域の方が支持的な雰囲気醸成した授業」

この取組は、年に数回、学校支援ボランティアと連携した授業を地域の方に公開することで、子供たち一人一人の良さを認め、大切に授業づくりを目的として実施された。

主な取組内容として、1年生の授業で「平生お話し会」の方をゲストティーチャーとして招へいし、ブックトークを取り入れた授業を行ったことがあげられる。

授業には地域の方が20名以上参加し、国語の「すきなものなあに」の単元で、子供たちが自分の好きな物を発表し、自分の思いを友達や参観者に共感してもらおうというものであった。授業の進行は「平生お話し会」の方々と、巧みな話術や担任教師との連携の取れたやり取りで、子供達の発表を評価し、価値付けを行った。今年の佐賀小学校の1年生は4人で、ふだんの授業ではなかなか大勢の前で自分の思いを発表する場がない。子供たちは、このような大勢の人たちの前でしっかり発表し、保護者や地域の方々に認めてもらえたことで、大きな自信と喜びを感じていた。

これらの取組を通して、子供たちは自分が大事にされていると感じ、自己肯定感をもつことで、自分自身を大切にするとともに、周囲の人々を尊重し、お互いに認め合うことの大切さを学ぶことができた。

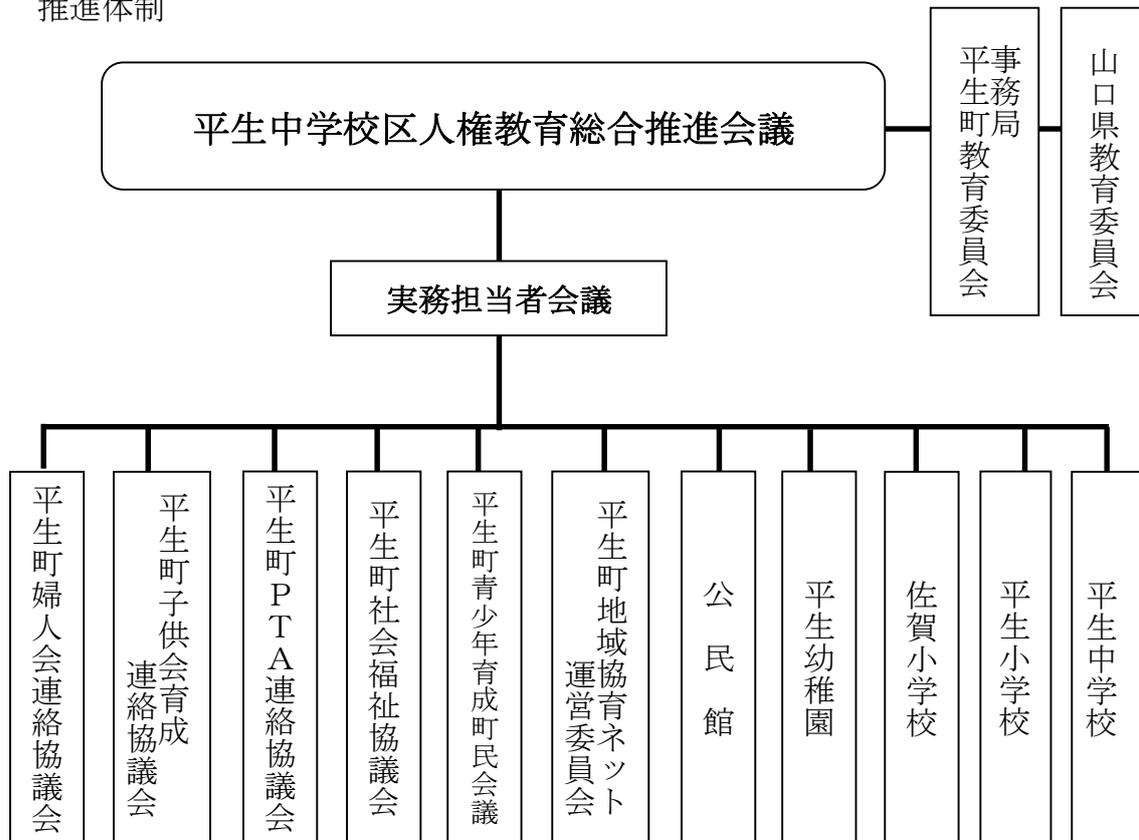


(取組の主体や実施体制)

佐賀小学校のある平生町では、平生町地域協育ネットを通して、子供の成長を地域で支援する取組を行っている。地域協育ネットとは、幼稚園から中学校卒業までの15年間の子供の育ちを、地域全体で見守り、育てていくという理念を中心に据え、学校、家庭、地域がネットワークを構築する仕組みづくりであり、山口県独自の施策である。この取組は今年度で5年目を迎えるが、その間、学校支援ボランティアを始め、児童クラブや放課後子供教室等、学校や家庭、地域住民が連携・協力して子供の成長に関わる取組が進められ、学校を中心とした関係諸機関の連携の基盤づくりも進んできた。地域住民が積極的に関わっているこれらの取組を通して、「地域で学校を支援し、子供を見守り、育てる」という意識が高まってきている。

佐賀小学校は、この地域協育ネットと連携して設立された、平生中学校区人権教育総合推進会議の構成メンバーである。総合推進会議の下には、各学校・団体の実務担当者による実務担当者会議が位置付けられている。この二つの会議では、平生町の将来像や育てたい子供の姿などについて、課題や意見を交換することで共通理解を図りながら、よりよい地域づくりに向けた、平生町の人権教育の在り方について協議している。佐賀小学校では、これらの会議を通して、学校・家庭・地域が互いに合いながら人権教育を推進していくことで、児童や地域住民の人権意識を高めるとともに、子供たちがよりよい環境の中で、豊かな人権感覚を育ていけるよう取り組んでいる。

推進体制



4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

- ・ 取組を実施する際に生じた課題

多くの学校支援ボランティアが、学校等に出入りするようになると、活動初期の段階では、教職員や児童との共通理解やコミュニケーションの不足等から、学校の応対や児童の態度に不満を感じるボランティアもいた。

- ・ 課題に対する解決方法

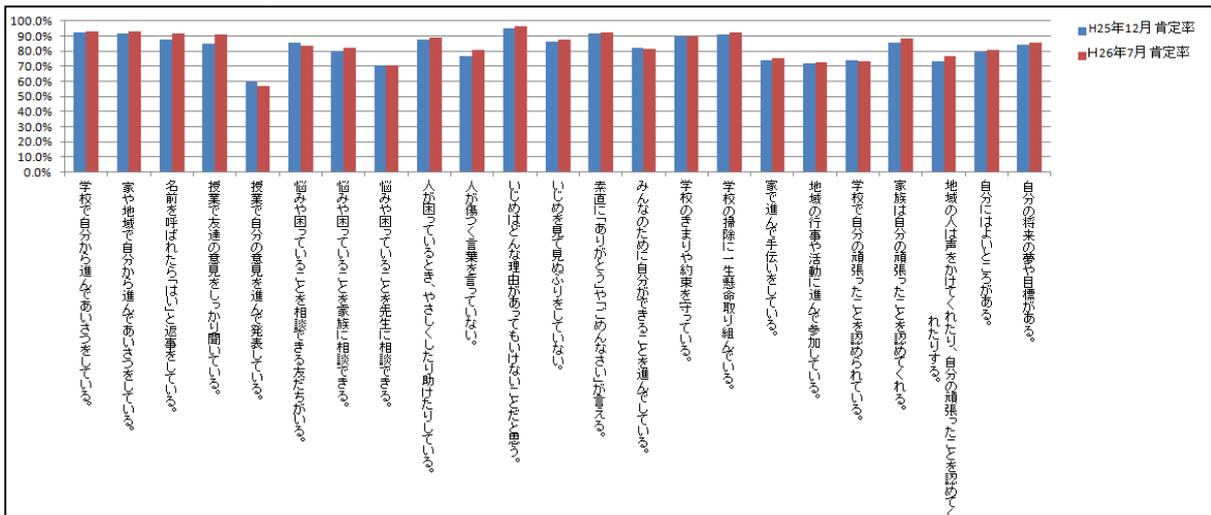
学校支援ボランティアの活動内容や活動スケジュールを全ての教職員や児童が把握できるよう、職員室をはじめとする校内の掲示黒板等を利用した連絡や情報発信を工夫し、学校支援ボランティアを迎える体制づくりを徹底した。また、学校支援ボランティアのための活動マニュアルを作成し、地域の方が学校と共通認識をもって学校支援活動ができるようにした。

各学級の活動や全校集会等、日常の学校生活の中で、子供たちに「なぜ地域の方は学校支援ボランティアとしてきてくださるのか」「『子供は地域の宝』と仰ってくださる地域の方々に自分たちは何ができるか」等を考えさせる機会を設け、子供たちの自己有用感や規範意識、感謝の気持ち等の醸成に努めた。

5. 実践事例の実績、実施による効果

人権教育総合推進地域事業を実施するに当たり、子供たちの変容を見取るために

アンケートを作成し、定期的に行っていくこととした。町内の学校(園)の実務担当者が一堂に会し、情報交換や課題を出し合っアンケートづくりをしたことで、互いに意思疎通と情報共有ができ、各校が共通認識をもって取り組んでいく基盤ができた。また、アンケート作成の過程や分析、協議において、平生町人権教育推進協議会委員が積極的に関わったことで、地域が一体となって推進していく体制が整ってきた。



「平生っ子アンケート」平成 25 年度 12 月と平成 26 年度 7 月の比較

- ・ 学校支援ボランティアを始め、地域住民との豊かな関わり合いに重点を置いて取り組んだところ、子供たちのコミュニケーション能力、自己有用感により変容が見られた。「地域の方に認めてもらった」「地域の方に喜んでもらった」という満足感や達成感、児童・生徒の自己有用感を高め、「頑張れば、きちんと認めてもらえる」という活動意欲の向上にもつながった。

6. 実践事例についての評価

・取組についての評価とその理由

多くの地域住民が「学校を身近に感じられるようになった」というように、地域の学校や子供たちへの関心が高まった。また、学校や保護者も、地域住民の子供を温かく見守る姿勢に感謝の念を抱くようになり、学校・家庭・地域が一体となって子供たちを見守り育てていくという心情が深まった。また、学校支援を目的に学校に集うことで、地域住民相互の絆も生まれてきている。互いを認め合い、高め合いながら、地域全体で人権を尊重する機運が醸成されてきている。

・保護者や地域住民からの反応

- 地域の方が子供たちを大切に思ってくださっていることがよくわかった。
- 地域の方のおかげで子供たちが生き生きと過ごすことができています。
- 子供は地域の宝。みんなで見守っていきたい。
- 佐賀小の子供たちはみんなよい子。子供たちから元気をもらっている。
- 町で出会っても声をかけてくれる子がおり、とてもうれしい。
などの意見が多く寄せられている。

・現在、実施に当たって課題と感じていること

課題について、以下に四点をあげる。

- 推進体制を整えていく過程で、総合推進会議や実務担当者会議のもち方について、地域の意見を取り入れつつ、試行錯誤をくり返しながら取り組んできたが、学校と地域の連携を一層強化し、より一層地域の声を反映した事業運営に努める必要がある。
- 総合推進地域事業の取組を、町内にある保育園や高等学校にも、これまで以上に拡大していく必要がある。
- 地域の方々に、各校（園）の取組への理解を深めてもらうために、今後も学校（園）便りや広報紙等を工夫し、積極的に情報発信をしていく必要がある。
- アンケート項目の「自分の意見を進んで発表している。」の数値が十分ではない。今後も学校生活における安心感や自己有用感を育むことはもとより、基礎的・基本的な学力の伸長を図ることで、児童・生徒に自信をもたせ、一人一人の頑張りが認められる学級づくりや授業づくりを進めていくことが肝要である。そのためには、学校・家庭・地域がより一層連携し、多様な観点をもって学校教育を支援し、豊かな人間性を育む取組を強化していく必要がある。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

平生町立佐賀小学校

小学校の事例となっているが、実際上は、幼・小・中の連携や、学校・家庭・地域との連携を大きく位置付けた、中学校区の取り組みに広がっている。一例をあげると、国語科の点字学習に際して、地域に住む視覚障害のある高齢者の方にゲストティーチャーとして来ていただき、幼い頃からの生い立ちや暮らしの様子を児童が聞き取った。その後、児童たちは交流会を企画し、その方といっしょに遊ぶ方法をつくりだし、学校に招いていっしょに遊ぶなどしている。これらは、参加・体験・協力を位置づけた人権学習として特筆できる。そのほか、たとえば地域の方が支持的な雰囲気醸成した授業として、ボランティアの方たちが小学校1年生にブックトークを行って、児童の自己肯定感を確かなものとしている。学校ボランティアの方たちのコーディネート的重要性もよく示している。